

日本中世英語英文学会東支部研究発表会 第1回～20回

第1回研究発表会 (1985年7月13日、駒沢大学)

研究発表

1. 渡辺秀樹(東京大学大学院): 『ペーオウルフ』1020b
司会 吉野利弘(立教大学)
2. 西成田道夫(立教大学大学院): SALVUM FACERE の OE 訳語
司会 久保内端郎(東京大学)
3. 秦 宏一(東京都立大学): WEORDHAN から WORTH へ
司会 苅部恒徳(新潟大学)
4. Miriam Skey(津田塾大学): How Did Herod Die?
司会 奥田宏子(神奈川大学)

第2回研究発表会 (1986年7月5日、青山学院大学)

研究発表

1. 奥山 譲(富山大学): 十五世紀実用散文の言語的均質性について
司会 吉野利弘(立教大学)
2. 西出公之、川端 喬(帯広畜産大学): 『カンタベリ物語』における shall と will の頻度 物語間の文体的類似性を計る尺度となりうるか
司会 小川 浩(東京大学)
3. 都留久夫(横浜国立大学): Chaucer と老齡
司会 繁尾 久(明治学院大学)

報告

菅野正彦(愛知教育大学): Sheffield の中世文学
司会 齋藤 勇(同志社大学)

特別講演

今野国雄(青山学院大学): 11世紀イングランド教会とヨーロッパ
司会 岡 三郎(青山学院大学)

第3回研究発表会 (1987年7月4日、新潟大学)

研究発表

1. 笹川壽昭(新潟大学): The Romaunt of the Rose にみられる翻訳の技巧
司会 岩崎春雄(慶應義塾大学)
2. 岡 三郎(青山学院大学): ‘Comparative Narratology’ からみる Chaucer 文学 とくに ‘Physician’s Tale’ について
司会 松浪 有(東京都立大学)
3. 繁尾 久(明治学院大学): チョーサーの作品における「愛」について
司会 齋藤 勇(同志社大学)

特別講演

Ruth Morse(Fitzwilliam College, Cambridge): Chaucer’s Man of Law in Sequence

第4回研究発表会 (1988年6月25日、成城大学)

研究発表

1. 川上彰子(成城大学大学院): Troilus and Griseyde における Pandarus についての一考察 II Filostrato における Pandaro と比較して
司会 都留久夫(横浜国立大学)
2. 横山千晶(慶応義塾大学大学院): Sigurd the Volsung における medievalism Brynhild と Gudrun をめぐって
司会 忍足欣四郎(東京都立大学)
3. 小倉美恵子(鶴見大学): 英語史上の言語接触について
司会 小野 茂(昭和女子大学)
4. 河崎征俊(駒沢大学): ME Romance の Structuring devices MS. Cotton Caligula A. ii, ff. 71-76 を中心にして
司会 繁尾 久(明治学院大学)

第5回研究発表会 (1989年6月24日、明治学院大学)

研究発表

1. 中村幸一(東京大学大学院): 後期古英語散文の関係詞節中に於ける語順について
司会 秦 宏一(東京都立大学)
2. 井出 光(東京都立大学): and + hafde +過去分詞
司会 小川 浩(東京大学)
3. 池上恵子(成城短期大学): On the 'lineages' of the 'and' constructions in the late ME prose
司会 小林栄智(国際基督教大学)
4. 野口俊一(大阪教育大学): ふたたびベオウルフの 'soðfastra dom' について
司会 忍足欣四郎(東京都立大学)

第6回研究発表会 (1990年6月23日、鶴見大学)

研究発表

1. 辻 康哲(成城大学大学院): 語り手 Wil と 'kinde knowynge' Piers Plowman の『知る』問題をめぐって
司会 齋藤 勇(同志社大学)
2. 古庄 信(学習院女子短期大学): 初期近代英語における迂言的 do の発達に関する一考察
司会 山川喜久男(福岡大学)
3. 木村哲夫(東京学芸大学)、小黒昌一(早稲田大学): On the Vocabulary of Mandeville's Travels (MT): Towards the Creation of a Computerized Textual Data Base
司会 秦 宏一(東京都立大学)
4. 忍足欣四郎(東京都立大学): Beowulf の邦訳について
司会 小野 茂(昭和女子大学)

研究発表

司会 高宮利行(慶應義塾大学)

1. 辺見葉子(慶應義塾大学大学院): Morgain la fee の water connexion
2. 山口恵理子(昭和女子大学大学院): ダンテ、アーサー王物語、そして 1855 年のロセッティ その口づけの系譜
3. 不破有理(慶應義塾大学): Calidore から The Misfortunes of Elphin へ : Thomas Love Peacock のアーサー王物語
4. 高宮利行(慶應義塾大学): 19 世紀イギリスの書物生産における Medievalism Henry Shaw, Owen Jones, Henry Noel Humphreys を中心として

第7回研究発表会 (1991年6月29日、慶應義塾大学)

研究発表

1. 辺見葉子(慶應義塾大学大学院): J. J. R. Tolkien の The Lay of Aotrou and Itroun における medievalism
2. 白井菜穂子(文化女子大学): 『ペーオウルフ』における剣のモチーフ
司会 松井倫子(立教大学)
3. 竹中昌宏(中央大学): イエズ会の演劇 Antipelargesis について
司会 奥田宏子(神奈川大学)
4. 織田哲司(上智大学大学院): Sir Gawain and the Green Knight の語彙分析 国語意識との関係から
司会 鈴木栄一(東北学院大学)
5. 三村絵里(専修大学): 古英語・中英語における ghost, soul 及び spirit
司会 秦 宏一(東京都立大学)
6. 木村哲夫(東京学芸大学)、赤間勇雄(早稲田大学大学院): 散文(コットン)版と韻文版『マングヴィルの旅行記』の語彙
司会 小黒昌一(早稲田大学)

特別講演

William Schipper(国際基督教大学): Superstition in the Anglo-Saxon Age
司会 久保内端郎(東京大学)

第8回研究発表会 (1992年6月27日、東京都立大学)

研究発表

1. 鈴木敬了(国際基督教大学大学院): 『アングロ・サクソン年代記』における語順について
司会 小倉美知子(千葉大学)
2. 石原 覚(東京都立大学): 「蘇らせる」を意味する古英語の比喩的表現について
司会 小田卓爾(慶應義塾大学)
3. 畝部典子(奥羽大学): Cuman と Gan の語義とその用法について
司会 小黒昌一(早稲田大学)
4. 奥村 譲(富山大学): Cambridge, St. John's College, MS B. 12 (34)の綴り字の変化について

司会 佐藤修二(中央大学)

5. Yuko Tagaya(関東学院大学: Salvation as Seen in Pearl : In the Case of the Jeweller

司会 寺澤芳雄(東京女子大学)

第9回研究発表会 (1993年6月27日、横浜市立大学)

研究発表

1. 高島みき(慶応義塾大学大学院):カーライルにおける中世趣味的効果

司会 松井倫子(立教大学)

2. 吉田 聡(杏林大学):アクティングスタイルの変遷(中世英国演劇からエリザベス朝まで)

司会 奥田宏子(神奈川大学)

3. 木村哲夫(新潟青陵女子短期大学)、赤間勇雄(早稲田大学大学院):頻度表の意味と中世英語語彙研究

司会 秦 宏一(東京都立大学)

4. 海老久人(関西医科大学):チョーサーと音楽 中世における「文学」概念の軌跡

司会 都留久夫(川村女子学園大学)

第10回研究発表会 (1994年6月25日、成城大学)

研究発表

1. 中嶋雄彦(成城大学大学院):マロリーにおけるマーリンの予言の成就

司会 春田節子(日本女子大学)

2. 吉村耕治(関西外国語大学): English Color Expressions in the 15th Century

司会 島村宣男(関東学院大学)

3. 石井美樹子(神奈川大学):ベンジャミン・ブリテンと中世劇と『隅田川』

司会 齋藤 勇(同志社大学)

4. 秦 宏一(東京都立大学): Emending Beowulf 1333

司会 苅部恒徳(新潟大学)

5. 野口俊一(大阪教育大学):『呪い』の影響とベーオウルフ

司会 忍足欣四郎(白百合女子大学)

第11回研究発表会(1995年6月24日、駒沢大学)

研究発表

1. 秋山直美(成城大学大学院):異界から来た花嫁 - Guinevere の起源をめぐって

司会 松井倫子(立教大学)

2. 佐藤 勝(日本大学短期大学部):通時的研究における聖書四福音書の意義とそのデータベース化について

司会 小川 浩(東京大学)

特別フォーラム A Pre-session towards the Waseda Conference on Nicholas Love presented jointly by Shoichi Oguro (Waseda Univ.) and Toshiyuki Takamiya (Keio Univ.)

進行 宮崎忠克(横浜市立大学)
 小黒昌一(早稲田大学)
 高宮利行(慶應義塾大学)

第 12 回研究発表会(1996 年6月 29 日、立教大学)

研究発表

1. 加藤誉子(慶應義塾大学大学院): Caxton 工房の事情: Le Morte Darthur のパラフマ
ーク
司会 松田 英(流通経済大学)
2. Yasuyo Moriya (International Christian University): "Primary" and "Secondary"
Alliteration in the Poems of the Pearl Manuscript
司会 小川 浩(東京大学)
3. 児玉仁士(獨協大学): 古期フリジア語と古期英語の比較
司会 荻部恒徳(新潟大学)
4. 小野 茂(昭和女子大学): Fair と fager
司会 宮崎忠克(横浜市立大学)

第 13 回研究発表会(1997 年6月 28 日、川村学園女子大学)

研究発表

1. 横山茂樹(京都産業大学): Sir Gawain and the Green Knight とサー・ウォルター・スコ
ット - サー・ウォルター・スコットとサー・フレデリック・マッデン
司会 松井倫子(立教大学)
2. 井出 光(東京都立大学): Factum Esse の古英語訳と The Salisbury Psalter
司会 荻部恒徳(新潟大学)
3. 岩淵恭子: Sir Gawain and the Green Knight 論 - Gawain 像の意味
司会 菊地清明(東京都立大学)

特別セッション HUMI プロジェクト - デジタル書物学に向けて

司会・講師 高宮利行(慶應義塾大学)
 講師 岩井茂昭(慶應義塾大学講師)
 講師 松田隆美(慶應義塾大学助教授)
 講師 アンドルー・アーマー(慶應義塾大学助教授)

第 14 回研究発表会(1998 年6月 27 日、昭和女子大学)

研究発表

1. 鈴木敬了(奥羽大学): 「ピーターバラ年代記」における格組織と目的語の位置の関係
司会 久保内端郎(東京大学)
2. 高橋 勇(慶應義塾大学大学院): 「19 世紀初頭の中世復興とレジナルド・ヒーバー」
司会 都留久夫(川村学園女子大学)
3. 村長祥子(東京大学大学院): OE 散文にみられる前置詞の後置について - 形容詞節

と関連する構文における後置を中心に

司会 宮崎忠克(横浜市立大学)

4. 加藤誉子(慶應義塾大学大学院): Le Morte Darthur の Stemma の再考 - Caxton 工房における Winchester 写本の役割から

司会 松田 英(流通経済大学)

5. 岡田優子(昭和女子大学非常勤講師): Chaucer における hende

司会 菊地清明(東京都立大学)

6. 忍足欣四朗(白百合女子大学): "Fugle gelicost" (Beowulf 218b) について

司会 苅部恒徳(新潟大学)

第 15 回研究発表会(1999 年 6 月 26 日、白百合女子大学)

研究発表

1. 赤堀志子(昭和女子大学大学院): チョーサーと香り - The Canterbury Tales の The Miller's Tale における "sweete" の意味

司会 松田 英(流通経済大学)

2. 徳永聡子(慶應義塾大学大学院): 初期印刷本におけるレイアウトの変化 - キャクストンからドゥ・ウォードへ

司会 都留久夫(川村学園女子大学)

3. 石原 覚(愛知県立大学): 「躓かせる」「躓く」を意味する古英語の表現について

司会 小川 浩(東京大学)

第 16 回研究発表会(2000 年 6 月 24 日、中央大学)

研究発表

1. 高木眞佐子(慶應義塾大学大学院): Chronicles of England と Polychronicon - Caxton の編集意図

司会 池上恵子(成城大学短期大学部)

2. 浅井 望(慶應義塾大学大学院): キャクストン版『アーサー王の死』の組み版の順序についての一考察

司会 池上恵子(成城大学短期大学部)

3. Yasuyo Moriya(International Christian University): Defamiliarized Language in Middle English Alliterative Poems Composed in the Thirteen-Line Stanza

司会 寺澤 盾(東京大学)

4. 衛藤安治(福島大学): 古英詩 Andreas における「船首」とキリスト

司会 秦 宏一(東京都立大学)

5. 春田節子(白百合女子大学): Chaucer と騎士と政治人間 Theseus

司会 多々谷有子(関東学院大学)

特別講演

安東伸介(慶應義塾大学): 傍白 - チョーサーをめくって

司会 小田卓爾(慶應義塾大学)

なお午前中には初めての試みとして、パソコンを使って史的コーパスからコンコーダンスを作成する講習会(世話役、田辺春美・成蹊大学)が開催された

第 17 回研究発表会(2001 年6月 30 日、学習院大学)

研究発表

1. 竹中肇子(千葉大学大学院):アーサー王物語群に見いだされる夢記述の展開 - Malory の Le Morte Darthur を中心に
司会 池上忠弘(成城大学)
2. 多々谷有子(関東学院大学):悲劇の英雄にみる貴族的精神:ガウェインと倭建命
司会 池上忠弘(成城大学)
3. 宮崎ひろ美(昭和女子大学大学院):Wid と mid について - OE Bede の mengan の場合
司会 畝部典子(東京家政学院大学)
4. 山形俊之(白百合女子大学大学院):Beowulf における variation の使用と効果について
司会 吉野利弘(立教大学)
5. 太田雅子(東京女子大学):The Canterbury Tales における'greet'
司会 浅川順子(慶応義塾大学)
6. M. Brad Bedingfield(東京都立大学):An Anglo-Saxon Dramatic Aesthetic ?
司会 松田隆美(慶應義塾大学)
7. 平林幹郎(大東文化大学):チョーサーの小品にみる言語接触と混合の痕跡について
司会 小野祥子(東京女子大学)
8. 高宮利行(慶應義塾大学):ジョン・ハリスの功罪 - ヴィクトリア朝の中世主義とペン・ファクシミリスト
司会 小野祥子(東京女子大学)

第 18 回研究発表会(2002 年6月 29 日、東京女子大学)

研究発表

1. 池田真弓:蔵書家としてのベッドフォード公
司会 佐藤修二(中央大学)
2. 千葉礼子(国際医療福祉大学):The 'Katherine Group'の写本間での不定詞の異同について
司会 佐藤修二(中央大学)
3. 大沼由布(慶應義塾大学大学院):「太陽の樹と月の樹」の変遷 - 『アレクサンダー大王のアリストテレスへの手紙』と『マンデヴィルの旅行記』を中心に
司会 武内信一(愛知大学)
4. 保永美和子(東京女子大学):「自然」を表す kynde の意味について - Piers Plowman の場合
司会 松下知紀(専修大学)

特別講演

- 小野 茂(東京都立大学名誉教授):フィロロジーと私
司会 小川 浩(東京大学)

第 19 回研究発表会(2003 年6月 28 日、東北学院大学)

研究発表

1. 市川 誠(青山学院大学大学院):Beowulf における過去複数語尾 un について
司会 苅部恒徳(新潟国際情報大学)
2. 野村貴俊(群馬工業高等専門学校):チョーサー韻文作品の文体の一考察
司会 池上 昌(慶應義塾大学名誉教授)
3. 平林幹郎(大東文化大学):Chaucer における Rhetorical Expressions について
司会 池上 昌(慶應義塾大学名誉教授)
4. 高橋一也(慶應義塾大学大学院):N タウン劇におけるマリア劇とイギリス王家 - 聖母マリアとマーガレット・オブ・アンジュー
司会 黒川樟枝(川村学園女子大学)
5. 柳下夏菜子(関東学院大学非常勤講師):ブレトン・レにおける王侯貴族
司会 末松良道(武蔵野大学)
6. 松井倫子:Sir Gawain and the Green Knight l.2368「あなたは生命をいとおしんだからで、非難も軽いというもの」は何を意味するか?
司会 池上忠弘(成城大学名誉教授)

第 20 回研究発表会(2004 年6月 26 日、駒沢大学)

研究発表

1. 三木泰弘(青山学院大学大学院):Beowulf における複合語 - 複合語 Hordweard と Beowulf のテーマ
司会 水野知昭(信州大学)
2. 原田英子(白百合女子大学大学院):The Border Ballads における英雄象 - "The Battle of Otterburn"(Child 161)と"The Hunting of the Cheviot"(Child 162)を中心に
司会 多々谷有子(関東学院大学)
3. 吉野利弘(立教大学):中世英語英文学研究への挑戦と課題 - 英語学を中心に
司会 多々谷有子(関東学院大学)
4. 鈴木哲治(早稲田大学大学院):Sir Gawain and the Green Knight における'bob and wheel'の機能について
司会 春田節子(白百合女子大学)
5. 松井倫子(元立教大学教授):"Green Man"の騎士的異形として見た緑の騎士の意味について
司会 春田節子(白百合女子大学)

シンポジウム HUMI プロジェクトにおける貴重書デジタル化研究の今日

構成・司会 高宮利行(慶應義塾大学)

1. 榎村雅章(慶應義塾大学 HUMI プロジェクト研究員)、高宮利行(慶應義塾大学):貴重書デジタル化の現在と実践例 - ウィンチェスター写本の場合
2. 岸田智宏(慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程)、徳永聡子(慶應義塾大学非常勤講師)、小澤慎治(慶應義塾大学理工学部教授):デジタル書誌学と中世研究 - 稀覯書解析支援システム開発に向けて
3. 馬場幸栄(東京大学大学院)、松田隆美(慶應義塾大学):XML による Digital Edition 構想 - 「文化的実践としての書物」のデジタル化へ向けて

講演

池上 昌(慶應義塾大学名誉教授):写字生は手本をどう書き写した

か - John Shirley(c.1366-1456)の場合

司会 久保内端郎(駒沢大学)

注 1. 所属について非常勤講師の記載の有無は学会誌の記録に従った。大学院生については、修士・博士、前期・後期の区別をしていない。

注 2. 入力について、三木泰弘氏(青山学院大学非常勤講師)、和田忍氏(東京都立大学大学院)の協力を得た。

日本中世英語英文学会東支部研究発表会 第21回～30回

第21回東支部研究発表会（2005年6月25日、信州大学）

研究発表

1. 宮崎ひろ美（昭和女子大学研究助手）：
「敵」は誰か？ *Historia ecclesiastica gentis Anglorum* の翻訳をめぐって
司会 武内信一
2. 福田一貴（上智大学大学院）：
*Battle of Maldon*と*Beowulf*における臆病者に対する反応の差に対する考察
司会 吉見昭徳
3. 小池剛史（大東文化大学）：
古英語以降の属格機能の変化
司会 鈴木敬了
4. 山内一芳（青山学院大学）：
King Alfred の詩篇翻訳
司会 寺澤芳雄
5. 本田崇洋（関東学院大学大学院）：
The Canterbury Tales にみる好色と貪欲—‘the Wife of Bath’と‘the Pardoner’を中心—
司会 河崎征俊
6. 片見彰夫（埼玉学園大学）：
Julian of Norwich, A Revelation of Love における分詞構文について
司会 浦田和幸
7. 高木眞佐子（杏林大学）：
キャクストンの歴史観を巡って—*Chronicles of England* を取り巻く政治環境—
司会 武内信一

第22回東支部研究発表会（2006年6月24日、関東学院大学）：

研究発表

1. 山本伍紀（慶應義塾大学大学院）：
古英語における‘initial *h* + sonorant’ clusters の音声・音韻解釈について—頭韻による古英語詩の調査を中心に

司会 山内一芳

2. 唐沢一友（横浜市立大学）：

英語における月の名称について—ラテン語起源の名称はいつ本来語の名称に
取って代わったか—

司会 山内一芳

3. 堀田隆一（神奈川大学）：

同時進行した初期中英語の形態変化：S 複合拡張と格融合

司会 浦田和幸

4. 守屋靖代（国際基督教大学）：

中英語頭韻詩に定型表現は存在するか—*The Alliterative Morte Arthure* の連語類
型から

司会 安田 淳

5. 貝塚泰幸（立教大学大学院）：

死の寓意：*Sir Gawain and the Green Knight* における狩猟の場面再考

司会 辺見葉子

6. 小川真理（慶應義塾大学大学院）：

Amis and Amiloun 物語にみるナラティブの柔軟性

司会 菊池清明

7. 小竹 直（慶應義塾大学大学院）：

古英語祝福音書・詩篇におけるラテン語 *saluum facere* の翻訳方法について—*hal*
(*ge*)*don* と (*ge*)*haelan* 及び *hal don* と *hal gedon*—

司会 畷部典子

8. 忍足欣四郎（東京都立大学名誉教授）：

Cometa はラテン語か英語か

司会 吉見昭徳

9. 高橋一也（聖学院大学総合研究所特任研究員）：

Everyman 再考—1510年代から1530年代にかけての秘跡論を中心に

司会 米村泰明

10. 池上 昌（慶應義塾大学名誉教授）：

John Shirley (c.1366-1456) のスペリング：Final *-e* を書き足す

司会 池上恵子

11. 小路邦子（慶應義塾大学非常勤講師）：

アーサー・王権・エクスカリバー

司会 春田節子

12. 杉木良明（東京純心女子大学）：

シェイクスピアはアーサー王が嫌いだった？

司会 春田節子

講演

- 佐藤修二（中央大学）：

‘leof wilcuma / frysan wife’ (Dear is the welcome one / to his Frisian wife) —古英詩
解釈について

司会 吉野利弘

第 23 回東支部研究発表会（2007 年 6 月 23 日、大東文化大学）

研究発表

1. 梅津 篤（大東文化大学大学院）：

反復表現のもつ文体的効果—中英語作品の場合

司会 浦田和幸

2. 岡田 晃（大東文化大学大学院）：

中英語から現代英語にかけての否定接頭辞 *un-* の外来語付加について

司会 浦田和幸

3. 野口美咲（嘉悦大学非常勤講師）：

翻訳者の自由裁量—*Canterbury Tales* における ‘The Miller’s Tale’ の 18 世紀当
時の 3 種類の翻訳

司会 中村哲子

4. 狩野晃一（駒澤大学非常勤講師）：

Reeve の Provincialism を Chaucer は意図したか

司会 松田 英

5. 春田節子（白百合女子大学）：

“Virgile, Ovide . . .”—Aeneas と Dido と Chaucer の Criseyde

司会 松田 英

6. 和田 忍（東京都立大学大学院）：

Laws of Alfred の言語について—2 つの写本の比較から

司会 網代 敦

7. 小山良一（新潟工科大学）：
Kiernan's Beowulf Edition の MS Reading について
司会 吉見昭徳
8. 田中敦子（広島大学大学院）：
La3amon's *Brut* の二つの校訂本 MS. Cotton Caligula A. ix と MS. Cotton Otho C. xiii における無生名詞に呼応する代名詞 *hit* と中性化
司会 田辺春美
9. 江島孝人（立教大学大学院）：
Sir Gawain and the Green Knight における 'hende'
司会 横山茂樹
10. 高木眞佐子（杏林大学）：
BL Add. 10099 とキャクストン版『イングランド年代記』の本文校訂上の諸問題について
司会 小原 平

第 24 回東支部研究発表会（2008 年 6 月 28 日、杏林大学）

研究発表

1. 梅津 篤（大東文化大学大学院）：
『騎士の物語』における repetition の効果
司会 浅川順子
2. 岡田 晃（大東文化大学大学院）：
Chancery English に見られる否定の接頭辞
司会 小原 平
3. 小笠原清香（立教大学大学院）：
fast の多義性
司会 砂澤健治
4. 杉藤久志（上智大学大学院）：
トマス・ホックリーヴの *Series* における近代的メランコリー
司会 小林宜子
5. 小倉美加（明治大学非常勤講師）：
Troilus and Criseyde's swoon についての一考察
司会 松田 英

講演

濱口恵子（同志社大学嘱託講師）：

チャーサーにおけるポストコロニアル研究—非西洋の視点からの読み直し

司会 河崎征俊

第 25 回東支部研究発表会（2009 年 6 月 20 日、仙台白百合女子大学）

研究発表

1. 岡田 晃（大東文化大学大学院）：

後期中英語の書簡に見られる否定接頭辞について：Paston Letters の場合

司会 唐澤一友

2. 貝塚泰幸（立教大学大学院）：

The Second Nuns Tale におけるラテン語原典の交代移行とその意義

司会 鈴木敬了

3. 福田一貴（桐朋学園大学非常勤講師）：

Beowulf ll. 2177-83a の解釈：Beowulf と Heremod との「力」の比較を通して

司会 鈴木敬了

4. 山田 攻（埼玉医科大学病院）：

明治・大正期の日本におけるアーサー王物語「ガレス卿の話」の翻訳作品群についての一考察

司会 多ヶ谷有子

5. 原田英子（白百合女子大学非常勤講師）：

伝承バラッドの語りにおける視点の飛躍—主観と客観の狭間

司会 多ヶ谷有子

講演

松田隆美（慶應義塾大学）：

中英語宗教写本のイメージとコンテクスト—BL Addit. 37049 写本を中心に

司会 白井菜穂子

第 26 回東支部研究発表会（2010 年 6 月 19 日、立教大学）

シンポジウム

Sir Gawain and the Green Knight を読む—新たな発信に向けて

司会・総論 不破有理（慶應義塾大学）

貝塚泰幸（立教大学大学院）：

死を前にした人、Gawain

岡本広毅（立教大学大学院）：

Locality, Marginality, そして Centrality から読む *Sir Gawain and the Green Knight*

近藤未奈（大阪学院大学）：

校訂本比較から再読する *Sir Gawain and the Green Knight*

研究発表

1. 山田 攻（埼玉医科大学病院）：

明治・大正期の英文学史概説書に見る Sir Thomas Malory の *Le Morte Darthur*

司会 高木眞佐子

2. 石井美樹子（神奈川大学）：

ベルシラック城主夫人とデズデモーナの白いハンカチーハンカチが象徴するもの

司会 岡崎久美子

3. 狩野晃一（獨協大学）：

古英語語頭<sc->の中英語期におけるヴァリアントスペリング<x->について—SHALLを中心に

司会 堀田隆一

講演

山内一芳（青山学院大学）：

アングロ・サクソン イングランドの翻訳文化—詩篇の注解と翻訳

司会 鈴木敬了

第 27 回東支部研究発表会（2011 年 6 月 18 日、中央大学）

研究発表

1. 原島太一（立教大学大学院）：

Beowulf における竜の性質の再考

司会 片見彰夫

2. 和田 忍 (神奈川大学) :

アルフリッチの説教「異教の神々について」から読み解くゲルマン的異教の扱いに関する一考察

司会 片見彰夫

3. 長谷川千春 (鶴見大学大学院) :

Malory の *The Tale of Gareth* における騎士になることの意味

司会 辺見葉子

4. 貝塚泰幸 (立教大学大学院) :

Grissell の死、Gawain の涙、Animal Welfare

司会 辺見葉子

5. 原島貴子 (杏林大学) :

歴史叙述における著者意識の問題—「ロンドン年代記」の事例から

司会 辺見葉子

第 28 回東支部研究発表会 (2012 年 6 月 16 日、信州大学)

研究発表

1. 竹中肇子 (法政大学非常勤講師) :

マーク王の「偽誓」

司会 不破有理

2. 玉川明日美 (立教大学大学院)

The Reeve's Tale における〈女性〉を巡る対立—語り手の〈個〉の投影と主張

司会 浅川順子

ワークショップ

日本の大学院で英語史英文学史を学ぶ—カリキュラムの特徴とアドバンテージ

司会 守屋靖代 (国際基督教大学)

家入葉子 (京都大学)

池田 真 (上智大学)

松田隆美 (慶應義塾大学)

講演

小倉美知子（慶應義塾大学）：

古英語における迂言形—特に ‘*beon/wesan* + present participle’ の使用について

司会 辺見葉子

第 29 回東支部研究発表会（2013 年 6 月 15 日、慶應義塾大学）

研究発表

1. 福田一貴（駒澤大学）：

Beowulf における「毒」：Grendel の棲家のある沼地は「毒」のある場所か？

司会 堀田隆一

2. 和田 忍（中央大学非常勤講師）：

キリスト教に対する異教の神々の立場—異教の神々の邪神化に関する一考察

司会 堀田隆一

3. Wanchen Tai（慶應義塾大学非常勤講師）：

Sir Garcy, a ‘Misbehaving’ Old Man: Ageing, the Aged, and Ageism in Context

司会 高宮利行

4. 浅川順子（慶應義塾大学）：

Troilus and Criseyde における自然と偶然

司会 野地 薫

講演

佐藤よりこ（(株) コーゾーデザインスタジオ取締役）：

13 世紀末～15 世紀の西洋美術における諸問題について

司会 池上忠弘

東西支部第 30 周年記念合同研究発表会（2014 年 6 月 14 日、青山学院大学）

研究発表

1. 三浦あゆみ（関西外国語大学）：

He/She this in Middle English: Reassessing Latin influence

司会 堀口和久

2. 岡田 晃（小山工業高等専門学校）：

否定接頭辞 in- / un-付加派生語の歴史的考察—中英語期から現代英語にかけて—
—

司会 鎌田幸雄

3. 杉藤久志（上智大学一般外国語センター非常勤講師）：

ホックリーヴにとっての法と社会

司会 片見彰夫

4. 足立峻一（駒澤大学大学院）：

John Lydgate *The Temple of Glas*—3 写本における悩める女性の性格の変化—

司会 福田一貴

5. 高森理絵（大阪大学大学院）：

中英語詩における wallen と wellen が表す概念メタファーについて

司会 大野英志

6. 貝塚泰幸（首都大学東京・千葉商科大学非常勤講師）：

Naples 写本における *Libious Disconious*

司会 辺見葉子

7. 渡辺直子（関東学院大学非常勤講師）：

Pearl における宝石商の転換点—天国への道—

司会 守屋靖代

8. 濱田里美（立教大学大学院）：

『カンタベリー物語』における中世後期の orality と literacy の混在—「トパス卿の話」再考—

司会 宅間雅哉

COLLOQUIUM

“Translating Psalms into Old English Verse: Practice and Theories” chaired by Kazuyoshi Yamanouchi (Emeritus Professor and Specially Appointed Professor at Tokyo Metropolitan University)

Patrick O’Neill (University of North Carolina):

Translation in practice: Old English versions of the Latin Psalms

Haruko Momma (New York University):

Translation theory and the Old English Psalms

Kazuyoshi Yamanouchi (Emeritus Professor and Specially Appointed Professor at Tokyo Metropolitan University):

From Latin Psalter to Vernacular Psalter: the Old English Interlinear Gloss of the Lambeth Psalter